



# 産経新聞

朝の詩

青葉に

栃木県足利市  
神谷 由里 71

せんげん山は  
小さな雑木山です

天辺は平らで  
石の祠があります

山の神様の  
お祭りをしたのは  
いつの頃でしょうか

神様の  
お渡りのように

今 青葉に  
風が通ってゆきました  
(選者 新川和江)

無料耐震診断実施中

**高松建設**  
TakaMatsu  
詳しくは 高松建設 検索

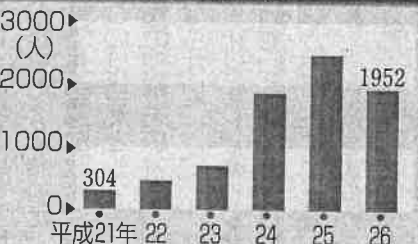
☎0120-53-8101

## 海外協力隊員は「即戦力」 企業求人5年で6倍超

青年海外協力隊などで海外経験を積んだ若者を採用したいという企業が増えている。国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊経験者らに対する企業からの求人は5年間で6・4倍に増加。途上国に進出する企業が増えていることが背景にあり、とりわけ、人手不足に悩む中小企業にとって「即戦力」として使える国際派の人材は大きな魅力のようになった。

JICA関西(神戸市中央区)で今日23日、企業の採用担当者らを対象にした協力隊員の活動報告会が開かれ、関西の20社近い中小企業の社長や採用担当者らが参加した。タイやウガンダなどでボランティア活動を行った元隊員らが現地の経験をアピール。ミャンマーに支店を持つ電気設備工事会社、紀南電設(和歌山県御坊市)の的場信夫次長は「東南アジアへのビジネス展開を一緒に担ってもらえる人材として仲間になってほしい」と、元隊員らにラブコールを送った。

JICAボランティア経験者に対する民間企業等からの求人数



JICA関西が企業向けに活動報告会を始めたのは2年前。かつて国際協力に関心のある人を対象に行っ

ていた報告会は、今ではリクルート活動の場にも位置付けられるようになった。実際、JICAに寄せられる海外ボランティア経験者をターゲットにした企業からの求人は、平成21年は全国で304件だったが、25年は2506件にまで増えた。26年は1952件とやや伸び悩んだものの、求人数は帰国した隊員数を上回るほどだという。

こうした背景には、中小企業も海外進出が珍しくなくなってきたことがある。大企業は新卒採用が一般的で、長期研修制度などで海外で活躍できる人材を育てるケースが多いが、中小企業は自社で育成するのは費用も時間もかかる。その点、途上国で現地の人と交

流しながら働いた経験を持つ20代から30代前半のボランティア経験者は、すぐにでも途上国でビジネスを拡大したい中小企業にとって、うってつけの人材だ。深堀勝謙社長は「協力隊

出身者は、海外経験だけでなく自分で仕事を開拓していく能力がある。新しい会社なので、会社と一緒に成長していくのに最適な人材」として、新たな人材獲得にも意欲をみせている。